



佐賀県立博物館
SAGA PREFECTURAL MUSEUM
佐賀県立美術館
SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

令和7年8月8日

博物館・美術館 学芸課

担当者 野中

内線：3717 電話：0952-24-3947（直通）

E-mail:hakubi@pref.saga.lg.jp

OKADA-ROOM Vol.35 の展示がスタートしました 岡田三郎助・美の探究心―「下絵」と「技法」―

佐賀県立美術館は開館以来、明治から昭和初期にかけて活躍した佐賀県出身の日本近代洋画の巨匠岡田三郎助^{おかださぶろうすけ}（1869～1939）の画業と人物を紹介しています。

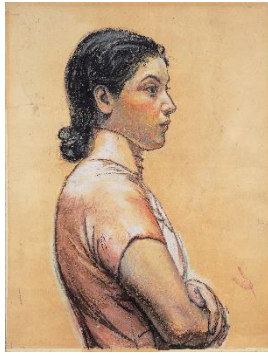
当館の岡田三郎助コレクションは、油彩画の名作をはじめ、日本画、素描（デッサン）、版画、さらに彫刻や工芸品等多岐にわたり、彼の幅広い表現力と技法を網羅するものです。

今回はその中から、岡田が描いた「下絵」（エスキース）と、彼の絵画作品の「技法」について注目し、紹介します。女性像や風景画等、数々の名作を生み出してきた岡田は、その準備段階として多くの下絵を描いています。これらは完成作に比べ注目される機会が少ないですが、いずれも岡田の繊細な感性を感じさせる、優れた出来のものばかりです。

また岡田は、美に関するあらゆる事柄にこだわりを見せたことは有名です。それは表現技法、技術の探究にも表れていて、彼は油絵具だけでなくペン、パステル、また岩絵具による日本画も描き、さらには版画（主に銅版画）も手掛けています。その多彩な作品群に、彼のあくなき美の探求心を見る思いがします。

今回は、いつもとは少し違った角度から、「画人」岡田三郎助の美の世界をご紹介します。ぜひご覧ください。

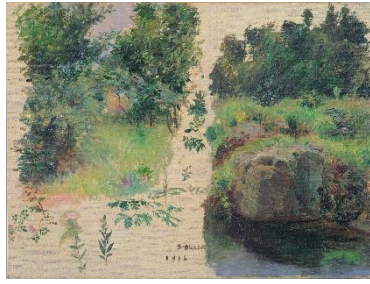
- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 会 期 | 令和7年8月7日（木曜日）～12月14日（日曜日） |
| 2 開 館 時 間 | 9時30分～18時 |
| 3 休 館 日 | 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日） |
| 4 会 場 | 佐賀県立美術館 OKADA-ROOM（佐賀市城内1丁目15-23） |
| 5 観 覧 料 | 無料 |
| 6 その他 | 会期中、一部作品の展示替えを行います |



婦人半身像下絵
1936（昭和 11）
佐賀県立美術館



花の香（エスキース）
1903（明治 36）頃



風景習作
1916（大正 5）
佐賀県立美術館

下絵－名作への道標



冠をつけた女の像
1909（明治 42）頃
佐賀県立美術館

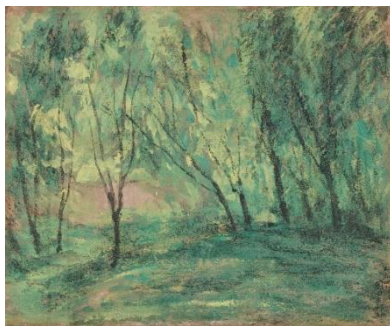


群像習作 2 鉛筆・紙 佐賀県立美術館



天井画下絵
1906（明治 39）
佐賀県立美術館

壁画の下絵－今は失われた、岡田の壁画をしのぶ



新緑 1929（昭和 4）佐賀県立美術館



木版画「おさん」
（近松門左衛門「大経師」より）
1922（大正 11） 佐賀県立美術館
※前期のみ展示



坐婦
1929（昭和 4）
佐賀県立美術館



銅版画「船のある風景」 1902（明治 35）
佐賀県立美術館 ※前期のみ展示

技法の追求－日本画・フレスコ画・版画－

No.	作品名	制作年	材 質	所蔵等	展示期間※
1	花の香（エスキース）	1903（明治 36）頃	油彩・カンヴァス		
2	天井画下絵	1906（明治 39）	油彩・板	佐賀県立美術館	
3	女の顔	1909（明治 42）頃	油彩・カンヴァス	佐賀県立美術館	
4	冠をつけた女の像	1909（明治 42）頃	油彩・カンヴァス	佐賀県立美術館	
5	風景習作	1916（大正 5）	油彩・カンヴァス	佐賀県立美術館	
6	婦人半身像下絵	1936（昭和 11）	パステル・紙	佐賀県立美術館	
7	淙々園にて	1935（昭和 10）	油彩・カンヴァス		
8	五族協和	1936（昭和 11）	木炭・カンヴァス	佐賀県立美術館	
9	群像習作 2	制作年不詳	鉛筆・紙	佐賀県立美術館	
10	台湾神社（下絵）	大正時代	油彩・カンヴァス	佐賀県立美術館	
11	富士山	1917（大正 6）	油彩・カンヴァス	佐賀県立美術館	
12	富士山図	制作年不詳	鉛筆・紙	佐賀県立美術館	
13	教会	1899（明治 32）	ペン・紙	佐賀県立美術館	
14	銅版画「船のある風景」	1902（明治 35）	銅版画（エッチング）・紙	佐賀県立美術館	前期のみ展示
13	銅版画「田園」	1908（明治 41）	銅版画（エッチング）・紙	佐賀県立美術館	後期のみ展示
14	八瀬の里	1906（明治 39）	パステル・紙	佐賀県立美術館	前期のみ展示
15	木版画「おさん」 近松門左衛門「大経師」より	1922（大正 11）	木版摺着色（白）・紙	佐賀県立美術館	前期のみ展示
16	坐婦	1929（昭和 4）	フレスコ・カンヴァス	佐賀県立美術館	
17	新緑	1929（昭和 4）	岩絵具・絹	佐賀県立美術館	
18	裸婦（デッサン）	1936（昭和 11）	コンテ・紙	佐賀県立美術館	
19	坐裸婦	制作年不詳	コンテ・紙	佐賀県立美術館	後期のみ展示
20	銅版画「帰途」	制作年不詳	銅版画（エッチング）・紙	佐賀県立美術館	後期のみ展示

会期中、一部作品の展示替えを行います。

※展示期間について

前期…8月7日（木曜日）から10月13日（月曜日・祝日）まで

後期…10月15日（水曜日）から12月14日（日曜日）まで

おかださぶろうすけ

岡田三郎助

1869(明治2)～1939(昭和14)

1869年(明治2年)、佐賀県佐賀町(現佐賀市)に旧佐賀藩士石尾孝基の三男として生まれる。幼時に油絵に関心を持ち、のち洋画を学ぶ。黒田清輝、久米桂一郎らとともに洋画団体「白馬会」を創立、東京美術学校の西洋画科の助教授に就任する。また文部省の留学生としてフランスに渡り、画家ラファエル・コランから穏やかで明るい色調の作風を学んだ。帰国後は東京美術学校教授として、官展の指導者として、後進の育成に力を注ぎ、1937年(昭和12年)、第1回文化勲章を受章した。

繊細優美な婦人像を多く描き「美人画の岡田」と呼ばれた。



岡田三郎助アトリエ・女子洋画研究所 (県立博物館東側)

岡田三郎助は、1908年(明治41年)から1939年(昭和14年)まで、現在の東京都渋谷区恵比寿で暮らし、制作に打ち込みました。自宅に隣接したアトリエは木造の洋風建築で、岡田の没後は洋画家の辻永^{つじひさし}が譲り受けました。辻家の人々により長年守られた後、佐賀県立博物館東隣に移築・復原され、2018年度から一般公開されています。2022年には、国の登録有形文化財に登録されました。

このアトリエで岡田の名作の数々が誕生し、またその一室は、彼が主宰した画塾「女子洋画研究所」の教室として使用され、数多の女性画家たちが巣立ちました。

御来館の際は、ぜひアトリエもあわせて御見学ください。